

(1) 前回の振り返り ～第2回中学校再編整備検討委員会における意見～

1 小規模校に関わる中学校の現状から

①水平統合

- ・中学生徒数が令和4年度1,056名から令和16年度644名に減少すると予測されることから、大至急水平統合を進め、適正な規模にする。

②中学校の現状

- ・学級数が少ないと教員数も少なく、すべての教科の教員が配置できず、無免許での指導、非常勤の教員により複数校掛け持ちで担当している。非常勤は、授業のみの関わりしか持てない状況である。
- ・小規模校のメリットもある。幼いころからの人間関係を深め、それが生徒にとってよい環境になっている。教員も生徒や家庭のことを十分理解し指導ができるよさもある。しかし、人間関係が築けない場合は、それが長期間にわたり改善できず生徒を苦しめる事例も少なくない。また、小規模校の小規模化が進むとデメリットが多くなることが懸念される。

③小規模校について

- ・一般的に、小規模校とは12学級未満(学年4学級未満)の学校を称している。北杜市の中学校は現在最大の学校が8学級で、全学校が小規模校であり、小規模校の中にも段階がある。(学年3学級・2学級・1学級、学年1学級40人～10人程度)

2 適正規模審議会の3案について(「垂直統合」「水平統合」「組合せ」)

①審議会の様子から

- ・審議会では北杜市の教育はどうあるべきかという視点で意見がだされた。
- ・垂直統合は、小中一貫校のことを指し、形態はいくつかあるが小学校と中学校を一つの学校として、9年間のカリキュラムのもとに指導することを目指す。よさの一つとして、小学生と中学生の交流が挙げられる。北杜市の場合、単級が多いのでお互いによく知っている異学年の交流になり、その中で関係を深められる。しかし、学級規模は現状のままであり、現在挙げられている小規模校による課題の解決は難しい。

②垂直統合について

- ・小学校と中学校を統合しても、学級数が増えないので課題の改善は難しい。垂直統合をするならば複数の小学校、中学校を統合する必要があり、小学校の統合まで広がることになる。

③小規模校のよさと課題

- ・小規模校のよさとして、生徒一人一人の意見を取り入れてもらいやすい点がある。一方、教科ごとに複数の教員望まれる。また、生徒の居場所づくりの面では、小規模校では難しいところもあり、複数の学級が望まれる。

④組合せ統合について

- ・垂直・水平統合、それぞれにメリット・デメリットがあり、場合によっては地域ごとに。
- ・学級数が多い地域は垂直統合、少ない地域は水平統合ということも考えられる。
- ・今後も少子化やそれに伴う課題が進行することも理解した上で考える必要がある。

⑤小学校を各地区に残すこと

- ・特に小学校については、地域の方と密接に連携した教育活動を進める大きな価値がある。加えて、地域に学校を残したいという声もあることから、小学校は各地区に残したい。これを前提にすると、垂直統合は現状の小中学校が統合することになる。

⑥中学校での新しい人間関係づくり

- ・複数の小学校から中学校に入学してくると、そこに新しい出会いや人間関係が生まれる。中学生には、このような環境が必要である。

3 統合3案のメリット・デメリット、改善方法について

①水平統合推進

- ・現在の中学校の状況を踏まえると水平統合が望まれる。水平統合を進めるにあたっては、通学距離、通学時間が大きな要素となることから、通学時間の上限をもとに、スクールバスがどのくらいで到着できるか検討していくことが必要。

②通学距離、通学時間について

- ・現在、スクールバスを使用している学校では、遠いところで30～35分程度、乗車している。
- ・昨年度のワークショップでも、保護者は通学距離・時間を気にしていた。水平統合について、近くであれば統合賛成、遠くであれば反対という雰囲気を感じた。北杜市は広いことから、全体の状況を考えて、皆で譲歩していく姿勢が望まれる。

③生徒数の減少について

- ・令和16年度の中学生の生徒数が644人（1学年約200人）というのはインパクトがある。ここまで減少すると適正配置を進めても魅力ある学校となるのか考えてしまう。



●垂直統合

- ・垂直統合により、小中一貫教育における義務教育9年間を通じた教育課程の実施、小中学生の交流を通じた人間形成など、垂直統合のよさもあるが、学級の規模が変わらなければ現状の課題の解決は難しい。
- ・垂直統合を進めるためには、小学校の統合も検討する必要性が出てくる。

●水平統合

- ・中学校の現在の状況を改善するためには、水平統合を進め適正な規模にする必要がある。
- ・水平統合を進めるには、課題となる通学距離や通学時間を検討しながら考える必要がある。

●組合せ統合

- ・垂直統合、水平統合、それぞれにメリット・デメリットがあり、場合によっては地域ごとに検討することも考えられる。その際は、今後も少子化やそれに伴う課題が進行することも理解した上で進める必要がある